

令和7年度第2回 姫路市官民データ活用推進会議

別紙

○ 開会

○ 議題「次期計画の方向性及び骨子案について」

事務局	<ul style="list-style-type: none">○ 議題に関する資料についての事務局説明○ 議題に関する質問、意見
委員	<p>事務局案の次期計画のタイトル「姫路市デジタル戦略」は、市民の方々が見たときにそれだけでは具体的な内容をイメージすることが難しいと考える。</p> <p>もう少し市民目線に立ったわかりやすい名称がいいのではないか。</p>
事務局	<p>本計画は、官民データ活用推進基本法（以下「法律」という。）を根拠としており、第1期及び第2期計画の名称は、本法律名に基づき「姫路市官民データ活用推進計画」とした。しかし、委員のご指摘のとおり、市民の皆さんにわかりにくいということで、事務局案として「姫路市デジタル戦略」と仮置きしている。名称決定にあたっては、委員の皆さんから意見をいただき、市民に分かりやすい名称としたい。</p>
委員	計画期間を6年としているのは、法令で定められているからか。
事務局	<p>法令による定めはないため、任意の計画期間が設定可能である。第1期及び第2期計画は、国の官民データ活用推進基本計画（法律第8条）である「デジタル社会の実現に向けた重点計画（以下「重点計画」という。）」及び県の官民データ活用推進計画（法律第9条）である「スマート兵庫戦略」に基づき、計画期間を定めた。</p> <p>次期計画においては、国及び県の計画に加え、本市総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」の終期を意識し、6年としている。</p>
委員	計画の名称については、この場で議論するほどのことではないと思うが、市民に分かりやすい言葉を使うと、逆に伝わりにくい恐れがある。結局のところ、行政ならではの堅い表現が、最も市民に伝わるかもしれない。

委員	レイヤー毎の具体的施策（【議題】資料 P21～）について、全てを実行しようとすると莫大な費用がかかると思うが、全てを行うのか。
事務局	<p>資料に示している重点施策は、ビジョン実現のために考えられる施策の一案を記載している。したがって、市が計画・構想している施策もあれば、現状スコープに入っていないものもある。委員のご指摘のとおり、予算や人的リソースに制約があるため、すべての施策が事業化されるわけではないことをご承知おきいただきたい。</p> <p>また、これらは一部をお示ししたに過ぎないので、取り入れたほうがいい観点などをご議論いただきたい。意見は次回会議の際でも構わないので、ぜひお願ひしたい。</p>
事務局	重点施策中、次年度にスタートする5歳児健診については、姫路版スマートシティ事業である乳幼児健診デジタル化事業の一環として取り入れるもので、0歳からの各健診データなどPHRにかかるデータを蓄積することで、連続した健康状態の把握や、将来の健康管理に役立てることを想定している。
委員	<p>健診データは、市ではなく個人に帰属するため、権利関係など整理するべきものが山積していると考える。</p> <p>資料にある他の施策も同様に、クリアにしておくべきことが多くあるのではないか。</p>
委員	<p>資料に示されている重点施策は盛りだくさんで、市民生活の1から10までをカバーしていることが気になっている。リソースの面からも、フォーカスする部分を絞り込んだほうがよいのではないか。</p> <p>また、個人情報などセンシティブな情報を取り扱うので、データのリスク管理・マネジメントを徹底することを示す必要がある。一度問題が起きてしまうと、費やした時間や費用が無駄になってしまい可能性があるので、これらの部分に触れられていないことが気になっている。</p>
事務局	<p>事務局案として重点施策に掲げている各施策は、できる限り行っていきたい。</p> <p>デジタル戦略本部は、組織横断的にデジタル施策を推進するため、副市長を本部長として発足した。この経緯から、全庁横断的に横ぐしを刺す形で、これらの重点施策を中心に各施策を推進していきたい。</p>

	資料中の重点施策は、先ほども申し上げたように、あくまで事務局案なので、さまざまな議論をいただきたい。
委員	<p>地域医療の業界は、当初、地域ごとに保有データの蓄積・連携を行ってきたが、国が全国統一的なデータベースを整備し混乱した過去がある。個人情報の帰属や既存の地域連携システムの方針が整理されないままスタートしたことが、混乱の主な要因であると考える。</p> <p>国が構築しようとしている仕組みを、先行して地域が構築してしまうと、結果的に地方の投資が無駄になってしまう可能性があるので、国の動きは常にキャッチアップしておくべきである。</p> <p>個人情報の管理は、マイナンバーに紐づけて一元的に管理することも一案だと思うが、管理社会に難色を示す方もいるので調整が必要である。</p>
事務局	<p>現在、税や国民健康保険など 20 業務のシステム標準化事業を実施している。これは国が定めた全国統一的なデータレイアウトに基づくシステムを再構築し、ガバメントクラウドにて運用するものである。本市としては、ホストコンピュータからサーバへのシステム最適化が数年前に完了したところであったが、これらの方針に従い、再びシステムの再構築を行っている状況である。</p> <p>国の突然の方針発表により市町村やベンダーが混乱したことは事実であるが、国の方向性が誤っているとは考えておらず、強固なセキュリティや市町村間連携、ベンダーロックインの解消など標準化後のメリットは大きい。一方で、標準システムの構築は、相当のリソースを費やす必要があり、構築後のランニングコストも課題である。</p> <p>本計画は、これらの 20 業務の範囲外となっている業務も網羅することとしているため、お示しした重点施策案も多岐にわたっていることについてご了承いただきたい。</p> <p>また、構築したシステムなどを市民の方に理解していただき、実際に使っていただくための対策にも重点を置きたい。</p>
委員	<p>個人的には、個人情報は全てマイナンバーに紐づけてガバメントクラウドなどで一元的に管理し、自分自身でいつでも閲覧できるとともに、許可すれば行政や関係機関に提供できる仕組みが効率的かつ低コストで運用できると考える。一方、一元的な管理に難色を示す方々からの理解を得るために、誤解の解消や安心材料の提示を通じて、意識を変えていく必要があると考える。</p>

	これまでの意見を踏まえ、個人情報やデータの取扱いについて、本計画の意図するところをもう少し明確に記載しつつ、整理していきたい。
委員	<p>先ほどの壮大な議論と並行して、足元を固めることも重要である。</p> <p>前回（現行計画策定時）の会議で「データの棚卸から」という議論があったと記憶している。市が作成し、ホームページ等に公開されている文書や様式は、作成者の癖などによって、見にくいことがある。まずは、府内の文書データなどの棚卸を行い、統一的な作成基準に改めることも必要ではないか。</p>
委員	<p>事務局案の重点施策は、市の各担当課の専門分野の施策が並んでいるが、デジタル戦略本部の専門分野を定め、計画に盛り込むべきである。</p> <p>各分野の個別計画や各施策において、具体的にどの項目に横ぐしを刺すかを議論したほうがよい。現状の内容からは、デジタル戦略本部の専門性が見てこない。</p>
事務局	<p>各担当課が施策を検討し実行するが、デジタル戦略本部の役割の一つとして、デジタル技術を活用し、より利便性や効率性を向上させるために、全序的なツールを用意・提供し支援することが挙げられる。</p> <p>また、デジタル技術に関する技術的提案も合わせて行い、全序的に二重投資にならないようすることも役割の一つである。</p>
委員	ビジョンを掲げるだけではなく、掲げたビジョンをどのように達成していくかを具体的に記載するべきである。一方、計画期間が長いため、具体的に記載しすぎると、最新の社会状況に対応できなくなる恐れがあり、匙加減が重要であると考える。
事務局	<p>委員のご指摘のとおり、計画期間が長期にわたるので、具体的に記載しすぎることは難しいと考える。</p> <p>確実にできるもののみを記載するべきか、曖昧な表現でも、構想も含めて記載するべきかは、委員の皆さんにご意見をいただきたい。</p> <p>また、記載できない部分については、3年後の社会状況や最新技術の状況を勘案して、中間評価や見直しにおいて追加することも想定している。</p>

	<p>本計画の進捗状況は、KPIを設定し、毎年姫路市デジタル戦略会議に報告するとともに、本会議にも報告するので、評価いただきたい。</p> <p>事務局としては、具体的に記載したほうが他部局へも伝えやすく、市全体としての推進力も向上するので、案としてお示しした次第である。</p>
委員	<p>姫路市の方針として、国の方針性に従って平均的に対応していく方針なのか、先進自治体の立場を狙うかによって重点施策の項目が変わってくると思うが、姫路市としてのスタンスはどのように考えているのか。</p> <p>平均を狙うのであれば、リスクを取る必要はなく、逆に先進自治体を狙うのであれば、今リスクをとって取り組めば、「他の自治体に先駆けて先進的取組を行った」と言えると思う。</p>
事務局	<p>事務局としては、国の交付金等を活用し、一番手とは言わないまでも先頭グループに位置し、市民の皆さまの利便性向上に努めたいと考えている。</p> <p>一方、委員のご指摘があったように、先駆けて取組を行ったものの、国の方針変更や、取組当初は最新技術であっても後発で上回る技術が登場する可能性もある。現にこれらに直面している既存の取組もある。</p> <p>国の動きを把握することは非常に重要であると考えている。本会議には、各分野の専門家に参画いただいているので、各専門分野の最新の動きがあれば、ぜひ共有いただけたとありがたい。</p>
委員	<p>重点施策を拝見すると、どの市町村にも当てはまる一般的な施策が記載されているのみで、姫路ならではの施策が乏しいと思う。また、姫路市では不必要なものも含まれている可能性がある。適切に取捨選択を行わないと、計画自体が曖昧なものとなり、実効性に欠ける恐れがある。</p>
事務局	<p>各施策について、事業化する前に需要が見込まれるか等しっかりと分析を行い、費用対効果を考慮して実行していきたい。</p> <p>仮に、施策が当初の想定に反して、利用者が伸びなかつた場合は、見切りをつけて廃止するという選択肢を持つことも重要であると考える。</p>

委員	<p>デジタルは利便性や効率性を向上させるためのツールである。あらゆる制度をデジタル化することも重要だが、各制度にとって最も効率的な方法を検討し、その方法次第ではデジタル化にこだわる必要はない。無理にデジタル化したために使い勝手が悪くなってしまつては本末転倒である。</p> <p>ウェルビーイング指標における主観指標と客観指標の乖離の説明があったが、例えば、住民票を同じ市の別の窓口に提出しないといけないなど非効率な制度があることで、主観指標に多少なりとも影響しているのではないかと考える。法令等により市に裁量がない部分があることは理解するが、市としてできる制度改革をぜひお願いしたい。</p>
事務局	<p>制度自体の問題については、現在の社会にそぐわないものが多々ある。</p> <p>国も課題感を持っていると認識しており、行政間の連携を促進するために、先ほどの２０業務のシステム標準化によりデータレイアウトを統一した上で、全国約1，700の自治体への連携を構想しているものと思われる。</p>
デジタル・マネージャー	<p>私は、庁内DX担当デジタル・マネージャーとして、庁内のフロントヤードからバックヤードまでのDXについて支援を行っている。</p> <p>支援の際に、市の職員には「市民目線で事務のやり方を見直すように」という助言をしている。</p>
委員	<p>デジタル技術を活用した地域連携の関係については、行政のノウハウを踏まえ、市が一括してインフラ整備を行い、それを地域に展開していただくと、地域としても活用しやすいし、住民にとっての裨益性があると思う。</p>
事務局	<p>地域連携の関係のうち、高齢者や子どもの見守りについては、近隣市町と連携して一体的に施策を行っていく必要があると思うので、連携を進めていきたい。</p> <p>自治会をはじめとする地域団体の負担が年々増加していることは認識しているので、デジタル技術を活用した負担軽減策について検討していきたい。</p>
委員	<p>事務局案のビジョンについて、個人的には違和感はない。</p> <p>これからの時代には、様々な問題を自分事として捉えることが重要になってくると考えるので、各市民が自分事と捉え、官民共創による解決を狙うという方針は共感できる。</p> <p>学校教育についても同様で、子どもたちが主体性をもって物事を検討する能力を身に着け</p>

	<p>することが重要である。現状、このような教育を行っていく上では、従来の学校教材では限界があり、教材不足による制約を受けているので、学校教材の柔軟な調達についてご配慮をお願いしたい。</p> <p>市民の参画については、現状ボランティアやそれに近いものでの参画が主となっていることが課題であると感じている。地域のために行動する意思があっても、それに伴うコストが参画の制約となっている。ぜひ行政における経済的な支援についても検討してもらいたい。</p>
事務局	<p>教育委員会は、デジタル技術を活用した質の高い教育の提供に向け、非常に積極的である。デジタル戦略本部としては、教育委員会と連携を密にし、教育の質の向上や教科外学習においてもサポートしていきたい。</p>
委員	<p>今日では、老若男女問わずSNS型の投資詐欺・ロマンス詐欺などの特殊詐欺の被害が急増している。デジタル化が進むにつれて、それに便乗した特殊詐欺被害も増加する可能性がある。これらの被害は、様々な事情で地域から孤立しがちな方や相談相手がない方などに集中する傾向がある。詐欺被害を防ぐためにも、地域から孤立する人をなくす取組や、いざというときに安心して相談できる窓口の設置を、地域環境レイヤーへ記載してほしい。強いメッセージを出さないと被害は絶対に防げない。詐欺被害をなくすためにもぜひお願いしたい。</p> <p>詐欺被害撲滅に向けて、警察は啓発活動を積極的に行っており、学校でも子どもたちへの教育を強化しているが、現状不十分であると考える。</p>
委員	<p>どの組織でもそうだが、個人情報や機密情報が一度漏洩してしまうと、相手方との信頼関係は一瞬にしてなくなってしまう。セキュリティ対策に確実に取り組むことを計画に明記するべきである。</p>
事務局	<p>施策の普及策として、施策を利用した方にポイントを付与することがよく検討されるが、特殊詐欺と疑われてしまう恐れがあるため、非常に難しい。</p> <p>また、市民の方々からは「デジタルを使うことが、セキュリティの観点から不安」というお声もいただく。先ほど委員からご指摘があった相談できる場の設置など、安心して利用いただける対策について計画に盛り込みたい。</p>

	委員 特殊詐欺被害を防ぐために、記載するべき具体的な対策はあるか。
	委員 今日、特殊詐欺の手口は巧妙化しており、具体的に「この対策をしておけば安心」といえる対策はない。従来から言われている、宛所が分からぬメッセージのリンクは開かない、添付ファイルは開かない、不明なネットワークには接続しないなどの対策を徹底してもらうしかない。 また、常に最新の事例や手口を収集し、発信していくということも重要である。
	委員 姫路市が目指すところは、IT化ではなく、姫路のまちを好きになってもらって人口を増やす、移住定住の促進だと考える。 教育分野について、実践的な教育や探究学習が重要である。子どもたちが興味のある分野で一定のアプトプットを得ることができれば、それが子どもたちの「好き」につながると思う。
	委員 (他の委員と重複するが) 計画の目的として「何のためにするのか」は追求して記載したほうがいい。 共働きの子育て世代にとって、朝の「旗当番」と夕方の「防犯パトロール」が月に1度回ってくるため、職場と調整して遅刻早退を行うなど、負担となっている。このような市民の負担について耳を傾け、デジタル技術を活用した負担軽減策をぜひ検討してほしい。
事務局	「何のために計画を定めるのか」については、最も重要な部分で、計画の目的が明確になっていないと方向性も定まらないと考える。市民の皆さんにわかりやすい目標・目的を定め、バックキャスティングで検討していきたい。
委員	本計画は、子どもや若者に焦点を当てていただいていることが大変ありがたい。 子育て世代の現状として、地域コミュニティのつながりが希薄になってきているため、保護者の情報収集はインターネットでの検索が主となりつつあると考えている。しかし、地元や自身にマッチしない情報がヒットすることが多く、自身が本当に必要とする情報にたどり着くまで、時間を要するという声を聞いている。 自身に必要な情報が手間をかけずに取得できる仕組みを、デジタル技術を駆使して構築し

	<p>ていただきたい。</p> <p>中学校部活動の地域移行「姫カツ」については、学校の先生に伺っても詳しい情報は把握されていないようで、保護者はもちろん把握できていない。</p> <p>適切な情報発信と、必要な情報が簡単に取得できる方法を確立してほしい。</p>
委員	<p>学校現場では、教科学習だけでなく社会に出ても実践できる技術・知識を習得させることにも力を入れている。例えば、シミュレーション教材を活用し、いわゆる「闇バイト」に関する理解を深め、児童生徒が被害者にも加害者にもならないための教育を行っている。</p> <p>また、金融教育の重要性も認識している。これまで教育現場では、お金に関して教えることはタブー視されていたが、社会に出る上で、お金の知識は重要である。しかし、教育活動ではしなければならないことが多く、取捨選択をせざるを得ない状況である。</p> <p>中学校における部活動の地域移行に関しては、令和8年9月から土日祝日の活動について地域移行を行うことが決まっている。さらに、令和10年10月からは平日の活動を含め、全活動が地域に移行される予定である。</p> <p>これに伴い、令和10年10月以降、中学生における放課後が大きく変わる可能性がある。自ら積極的に競技や文化活動を行いたい生徒は姫カツによる活動を行うが、「なんとなくやってみよう」という感覚の生徒は姫カツではなく、自身が興味のあることに時間を使うものと考える。</p>
事務局	<p>姫カツクラブや連携活動については、活動を希望する生徒とのマッチングの仕組みが必要であると考えている。</p> <p>また、一部の活動については、学習プラットフォーム内で行うことが有用であると考えている。個別のスペースを活用し、文化活動を同プラットフォーム内で行うなど、教育委員会と連携して検討していきたい。</p>
委員	<p>金融・経済教育について、私自身は学校で教わった記憶はないが、非常に重要な教育であると考える。金融機関の取組として、小学校に出向き、中学年を対象に金融・経済教育セミナーを行っている。</p> <p>重点施策の事務局案は、他の委員から指摘があったが、姫路市以外の市町村にも当てはまるものが多い。</p> <p>姫路市は、産業に歴史があり日本に誇れる企業も多数ある。また、様々なプロスポーツ</p>

	<p>チームが姫路市に拠点を置くなど、スポーツの点でも誇れる地域である。</p> <p>このような優位性を活かして住民や地域を巻き込み、「姫路市らしさ」を本計画に記載できれば、良い計画になると思う。</p>
事務局	<p>住民を巻き込むということを意識していきたい。学生や子ども・若者の巻き込みはもちろん、個人的には、高齢の方々の巻き込みも意識し、世代を超えて交流できる場の創出が重要だと考えている。</p>
委員	<p>本市の教育においては、「探究」に力を入れている。地域のために役立つことを考えたり、市とともにまちづくりについて検討したりする機会があれば、児童生徒は良い経験になると思う。</p>
事務局	<p>本日の資料中の重点施策案には、生成AI技術を活用した施策が含まれている。デジタル技術の進歩は目まぐるしく、その中心が生成AIの技術であると考えているが、生成AIに関する専門知識に長けているわけではないので、ぜひ活用場面や課題などご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>世界に目を向けると、米国政府機関が仮説から実験、実践導入までの一連の流れを、全てAIで行うという取組がすでに行われている。</p> <p>こうした中で、日本は、後発組であることを前提とした教育を行っていくしかないと言われている。また、教育者のAI知識不足に対応する必要がある。</p> <p>AIやデジタルのイノベーションは、究極的にはセキュリティの問題である。組織（特に一般企業）においては、個人情報や機密情報が流出すれば存続にかかる問題に発展するため、大変シビアである。</p> <p>現在、国内で使われている主要な生成AIサービスは、ほとんどが米国製であり、残念ながら、わが国はAI技術においては後れを取っている状態である。この状態を挽回するための施策は、国家レベルで検討する必要があり、その先頭を姫路市が走ってもらえば個人的には大変うれしい。</p> <p>「AI for education」に代表されるように、この先「AI for ~」が次々登場し、あらゆる分野にAI技術が活用されることが予想されるので、個人的に（本計画の期間である）6年の間にも、世の中の状況が大きく変わっている可能性が高いと考えている。</p>

	その中で、人口減少社会を受け止め、減少幅を極力抑えていくための取組を行っていく必要がある。
委員	<p>行政のAI活用については、AI作成案を最終的には人の目で確認し、成果物にしていくという使い方が主である。</p> <p>本計画については、「るべき姿」をまず描き、既存施策を当てはめ、姿を実現するために不足している項目を新規施策として検討してみるという手法もある。不足している項目に「姫路ならでは」があるかはわからないが、議論のたたき台にはなると思うので検討してみてほしい。</p>
委員	<p>AIを活用する上で、ファクトチェックは非常に重要である。いかにも正しそうな回答を生成してくるが、全くのたらめを生成するケースもある。使う人のスキルによって回答が変わってくることもあるので注意が必要である。</p> <p>また、「生成AIが答えた」という理由をもって正当化する人が増えてきたという点も問題であると考えている。AI教育の一環でファクトチェックの必要性や方法についても盛り込む必要がある。</p>
委員	<p>現状、ファクトチェックなどのAI教育が必要であることは理解するが、AI技術の進歩は目まぐるしく、ファクトチェックの重要性や方法について子どもたちに教育をしたところで、子どもたちが大人になるころには、ファクトチェック不要なAI技術が主流になっているかもしれない。</p>
事務局	<p>本市における生成AIの活用の現状としては、AIを使いこなしている職員とそうでない職員とで業務効率に差が生まれている。使いこなせる職員の育成が急務となってくる。生成AI技術の習得は、社会においてもかなりの利点となるので、府内だけでなく市民の皆さんへもどのようにアプローチしていくか、どのようにして市民のデジタルリテラシーを高めていくかを検討していきたい。</p>
会長	時間となったため、本日の議論はこれにて終了する。

○ デジタル・マネージャーからの意見

デジタル・マネージャー	<p>個人情報などのデータについては、オプトインを進めていく、その利活用を検討する必要がある。</p> <p>医療機関は、患者の健康情報など機微な情報を多数保有していることから、サイバー攻撃のターゲットになりやすい傾向があるが、自治体においても同様の情報を保有しているため、今後狙われる可能性は十分にある。委員から指摘があったが、サイバー攻撃の手口は日々巧妙化しているため、最新の手口を知り、対策を継続することが重要である。</p> <p>デジタル庁では、「ガバメントAI」なるAIを内省化し運用していく方針が、重点計画で示された。このことからも、行政分野においてAIを徹底的に活用し業務効率化や省力化に取り組む時代が、近い将来に到来する。</p> <p>個人的には、国の動きは遅いと考えているので、ぜひ先進自治体の一つとして、引っ張っていく存在になってもらいたい。</p>
デジタル・マネージャー	<p>本日の議論の中で、バックキャスティングの議論があったが、未来の世代に何を残せるかという点が非常に重要だと考えている。</p> <p>AIの議論があったが、生成AIは民間企業にとって、なくてはならないツールとなっている。米国の事例では、あらゆる職種がAIに置き換わり、大量解雇が問題となっているが、企業の競争力を向上させるためにはAI技術の活用は必須との共通認識がある。</p> <p>各行政機関において制度の見直しなどに動こうとしていることは理解しているが、民間企業目線では、動きに少々時間がかかると言わざるを得ない。</p> <p>AI技術など最新の技術の導入についても、関係機関との調整や法整備など時間を要することが予測されるので、常にアンテナを高くし、最新情報の収集に徹することが肝要である。</p> <p>市の組織の意識改革の点では、組織よりも所属している個人の意識を改革していくことが重要なので、研修や勉強会などを通じて意識を醸成していくことが肝要である。</p>
デジタル・マネージャー	<p>本日の会議の中で「何のために」という意見があったが、委員からご指摘があった「本格的に到来する人口減少社会において、どのように対応していくか」ということが計画策定のポイントではないか。</p> <p>その点で、市民の「好き」や「得意」を活用した興味型の社会へ移行し、価値創造をデジタルの力で支援して最適化していくという趣旨が読み取れるので、個人的には良いビ</p>

	<p>ジョンであると考える。</p> <p>自己実現と地域貢献の循環という点で、このような点に注目している市町村は少ないとと思われ、「姫路ならでは」と捉えてもいいのではないか。</p> <p>これらのビジョンを市民の皆さんにどのように伝えていくかという課題もあったが、これらのビジョンが達成されると市民生活において具体的にどの部分がどう変わるかを示し、自分事と捉えてもらうことが重要である。</p> <p>また、市の制度の複雑性や非効率性が議論となつたが、市民の皆さんにわかりやすい制度に改めることや効率性を追求するだけでなく、資格・権利がある方々に自動で制度が適用される、いわゆるプル型からプッシュ型への転換を目指すべきである。</p>
事務局	<p>本日の意見を反映させ、次回の会議にてお示しする。次回は2月中旬頃の開催を予定している。事務局から日程調整をさせていただくのでよろしくお願いしたい。</p>

16時33分 終了